

よしきい

2024年 早春号



目次

公園の風景

- 冬の公園は水鳥いっぱい! . . . 1
- トラフズクが...! 1
- 枯れヨシ原もだいじなねぐら . . . 1
- 大き〜いリース 1

木々と木の実と野鳥の話◎ . . . 2

みんなのひろば

- カブ子ちゃんとの再会 . . . 2

活動紹介

- 「クロツラヘラサギのクロちゃん、山口へ」 3
- アサギマダラ〜! 3
- きらら浜おみくじ 3

ホシハジロの群れとビジターセンター

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景

= 冬の公園は水鳥いっぱい！ =

オオバントリオ



何種類いるかな？

公園の淡水池には今いろいろな野鳥が集まっています。一年中見られるダイサギやコサギの他、渡り鳥のマガモやキンクロハジロ、オオバン、ヒドリガモなどたくさんいてとても賑か。オオバンのんびりと泳いでいたり、マガモは餌を探るとき頭だけ水中に突っ込んで、おしりを

水面に浮かせていたり。カイツブリは潜水が大得意で一度潜るとなかなか浮かんでできません。ちょっと、大丈夫～？と言いたくなるくらいですが、全然違った場所からひょっこりと顔を出します。

干潟ではアオサギ、ダイサギのとなりで餌を探しているヘラサギやクロツラヘラサギ、冬の間は頭の白いズグロカモメなども見られます。冬はいろんな種類の水鳥たちを観察できる絶好のチャンスです。皆さまも暖かくして公園に足を運んでみて下さい！



整列するアオサギ、ダイサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、の面々

= トラフズクが・・・ =

園内にフクロウの仲間が生息するとは聞いていたが、鳴声すら聞かず、姿を見ることはなかった。12月末にわくわくレンジャークラブの子供たちと樹林帯を通りかかった時、木の枝のあちこちに薄茶色と白色が混ざった羽がかかっているのを見つけた。すかさずレンジャーが、猛禽類の餌食となったトラフズクだと。こんな形でフクロウの存在を知るとは、弱肉強食の厳しい世界を垣間見た思いだった。



= 枯れヨシ原もだいじなねぐら =

小鳥や小動物のねぐらとなるヨシ原は、害虫を駆除し良い状態にするためのヨシ焼きで、春先には真っ黒な大地と化します。やがて若葉が芽吹き、夏には濃い緑色になっていたヨシ原も、今は枯れ野原となっています。しかし、この枯れヨシ原も、餌になる虫が豊富、天敵から身を隠せる、風があたりぬるかいなど、生き物たちにとっては大切な場所です。

2月には恒例となった園の行事「ヨシ原探検」があり、3月初旬にはヨシ焼きが行われます。燃え盛る炎が、枯れヨシをなめるように前進するのは圧巻です。見学自由ですので是非お越しください。

= 大き〜いリース =

12月、ビジターセンターの入口の柱に大きな大きなリースが架けられました。葦の会の代表の力作です。全部自然の材料で作ってあり、色とりどりの松ぼっくりは100個以上。真っ赤なホーリーの実や黒いシャリンバイの実も差し込んであります。でも、机上で作ったものは実際に架けてみると手直ししたいところが目に付き、大変な作業になったようです。ちなみに重さは10キロ近くあったそうですよ！





松ぼっくり（松笠）とはそもそも松の何でしょうか？ 松の雌花が松ぼっくりになるので「実」と言いたいところですが、厳密には種子を守る「球果」と呼ばれるものだそうです。一つ一つの笠の間に羽の付いた種が入っていて、晴れて乾燥した日に笠が開き種は風に乗ります。この種を松笠から引き抜いて食べるのはイスカやホシガラスが知られていますが、この辺りの松の種はマヒワ、シジュウカラ、ヤマガラなどの栄養豊富な餌になっています。

公園には開園当時、アカマツとクロマツの中で特に松くい虫に耐性のある松が植えられましたが、やはり松くい虫にはかなわなかったようで全部切られてしまいました。（実際に松を枯らすのはセンチュウという1ミリほどの線形動物ですが、卵を産み付けるために手入れのされていない弱った松に付いてセンチュウを運ぶのはマツノマダラカミキリです。）

鳥は木から食べ物をもらい、木は鳥に種を運んでもらって子孫を残していく。木と鳥は共存共栄の関係なのです。今ではたくさんの木々が生い茂っている公園の森も、野鳥とそこに棲む生き物たちによって年月をかけて造られてきたのですね。 （おわり）

みんなのひろば😊



カブ子ちゃんとの再会



「カブトガニのカブ子ちゃん」の人形劇を今年のきらら浜自然観察公園の秋まつりで上演します。お時間がありましたらお運びくださいませ。

こんな招待状が届いたのは九月だった。私はエッセイで「カブ子ちゃん」のことを書いたばかり。是非行きたい！と当時のボランティア仲間も誘った。阿知須の自然観察公園に足を踏み入れるのは何年ぶりだろう？何もかも懐かしかった。焼き芋やハチミツ、巣箱作りなど、いろんな出店で賑わう中、私たちは人形劇の会場へと向かった。男の人がギターで歌いながら盛り上げて、そしていよいよ「夢見るカブ子ちゃん」が始まった。

ああ、どれもこれもはっきりと覚えている場面ばかり！私の作った大きなチョウチンアンコウも登場！すごい迫力で一同大笑い。一緒に行ったYさんが作った可愛いぬいぐるみのエイがスイスイ泳いでいる。そして突然、とてつもなく長くて大きい地球の年表が舞台いっぱいに掲げられた。いかにカブトガニが大昔から地球にいたかを現したくて私が厚い布地に描いたものだ。みんなでああだ、こうだ言いながら工夫して作ったものばかり。あのときの様子が走馬灯のように思い出される。私は夢中になってスマホで撮った。

鳥のことをもっと知りたくてボランティアになったのは何年前だろう？体調が悪くなってやめてからもかなりたつ。カブトガニ研究会の会報を個人的にコピーして葦の会にも送り続けていたが、現在活動している人たちとも直接会えて旧知の仲間のように仲良くなった。私はもうずっと、こんなに人がたくさん集まる所に来ることはなかった。いつも痛い足を引きずってやっと歩いていたのに、この日だけは心も体も軽く楽しかった。

2023.11.14

(M.F)



活動紹介

= 「クロツラヘラサギのクロちゃん、山口へ」 =

時間前に練習をして・・・



公園の干潟で餌探しするクロツラ

ショートプログラムチームが毎月第三日曜日に行っている紙芝居。昨年最後の演目は大型紙芝居の「クロツラヘラサギのクロちゃん、山口へ」でした。クロツラヘラサギが、寒くなると北の国から暖かいこの山口県にもやって来ること、独特のしゃもじのような先が丸い形のクチバシは、釣り糸などが絡まると抜けにくく怪我などにつながることで、国を超えた保護対策で、絶滅が心配されていたクロツラヘラサギが少しずつ数を増やしていることなど、楽しく学べる絵とお話になっています。

葦の会の12月の生息数調査では、紙芝居にも登場する、山口湾の波多瀬と呼ばれる岩礁で休んでいる37羽のクロツラヘラサギが確認されました。

いざ、本番！

= アサギマダラ～！ =

アサギマダラを呼ぶためのフジバカマの成長を見守る葦の会ですが、今年の酷暑と根の病気、更にモグラに地中を荒らされ、立ち枯れも続出の中、花を咲かせた数株にアサギマダラの飛来を期待しました。山口県下への飛来数も減少し、あきらめかけていた11月8日、園長1頭確認との情報を耳に、その数時間後お孫さんと一緒に公園散歩を楽しんでいた会員のNさんが、吸蜜する1頭に遭遇したのです！後にも先にも昨年はこの1頭だけでした。

折しも会の研修旅行で、数年前アサギマダラが乱舞することで注目された豊浦のリフレッシュパークを訪れました。係りの方に何うと昨今は蝶の飛来ルートも変化し、豊浦に寄る個体は減少し、四国方面へ行ってしまったり。フジバカマはイノシシやシカの被害を受けているとも聞きました。大きな動物に荒らされることのない我がフジバカマ畑、新たな企画も含め充実したものへと取り組んでいきたいと思います。

<俳句教室最多選句>

・日の差せる湖をたたくや冬つばめ 道子	・身震いつつ踏み出す一步朝時雨 カツ子	・山帰来の実は寄せ付けぬ薄曇り ミツ子	・波まかせ風にもよよと浮寝鳥 カツ子
------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------

11月

12月

= きらら浜おみくじ =

1月2日～3日は公園の臨時開園日でした。今回で4回目となるおみくじ作りは12月初旬から始まりました。令和6年は辰年。カモの折り紙のおみくじを開くとタツにちなんだ内容と会員が手掛けたイラストが現れるという趣向でした。今年も楽しんでいただけましたでしょうか？

<編集後記>

新しい年が始まりました。今号の「みんなのひろば」に、葦の会OBの福島みゆきさんより投稿いただきました。その当時の仲間と作った紙芝居が上演された時の感激が伝わってきて、読んでいるこちらも嬉しくなりました。ご投稿、ありがとうございました。

それでは皆さま、本年も「よしきり」をよろしく願いいたします。

(nimu)